

日蓮大聖人御書全集

こうのにゅうどうどのごへんじ

国府入道殿御返事

新版
1756
ゝ
1757

こゝのにゆうどうどのごへんじ

国府入道殿御返事

けんじ

ねん

がつ

にち

さい

こゝのにゆうどうふさい

建治 2 年 ('76)

4 月 12 日

55 歳

国府入道夫妻

ひと

みこころ

さだ

移

こころ

定

人の御心は定めなきものなれば、うつる心さだめなし。

佐

渡 くに

そうら

ときごしんよう

不思議

覚

さどの国に候いし時御信用ありしだにもふしぎにおぼえ

そうら

にゆうどうどの

遣

おんこころ

候いしに、これまで入道殿をつかわされし御心ざし、ま

くに

隔

ねんげつ

重

そうら

弛

みこころ

た国もへだたり、年月もかさなり候えば、たゆむ御心もや

疑

そうら

色

顕

功

積

とうたがい 候に、いよいよいろをあらわし、こうをつま

たも

いっしょうにしよう

せ給うこと、ただ一生二生のことにはあらざるか。

ほけきよう

しん

ほとけ

ひと

こ

ふぼ

この法華経は信じがたければ、仏、人の子となり、父母

となり、め妻となりなんどしてこそ信しんぜさせ給たまうなれ。しか

るに、御子みこもおわせず、ただおやば親かりなり。「その中のなか

しゅじよう

衆生は、ことごとくこれ吾わが子なり」の経文のごとくなきようもん

きようしゅしゃくそん

にゅうどうどの

あまごぜん

じぶ

にちれん

らば、教主釈尊は入道殿・尼御前の慈父ぞかし。日蓮は、

みこ

にほんこく

ひと

また御子にてあるべかりけるが、しばらく日本国の人を

助

ちゅうごく

そうろう

しゅくぜん

尊

そうろう

たすけんと中国に候か。宿善とうとく候。

もうここく

にほん

乱

い

とき

おん

渡

また、蒙古国の日本にみだれ入る時は、これへ御わたり

しそく

ひと

おん

年

末

あるべし。また子息なき人なれば、御としのすえにはこれ

思

さだ

ほとけ

成

へとおぼしめすべし。いずくも定めなし、仏になることこ

終 住 処
そついのすみかにては候えと、おもい切らせ給うべし。

きようきようきんげん

恐々謹言。

うづきじゅうににち

卯月十二日

にちれん かおう
日蓮 花押

国 府 にゆうどうどのごへんじ

この入道殿御返事

甘 海 苔

紙

袋

ふた

和

布

じゅう

帖

小

藻

あまのりのかみぶくろ二つ・わかめ十じよう・こもの

ひと

一

頭

かみぶくろ一つ・たこひとかしら。